



ストレージ接続の設定

この章は、次の項で構成されています。

- [グローバル VSAN, 1 ページ](#)
- [WWN プール, 3 ページ](#)
- [IQN プール, 6 ページ](#)
- [vHBA テンプレート, 7 ページ](#)
- [vHBA ポリシーの作成, 9 ページ](#)
- [SAN 接続ポリシー, 10 ページ](#)
- [ストレージポリシー, 11 ページ](#)
- [ID 範囲資格ポリシー, 13 ページ](#)

グローバル VSAN

ドメイングループルートまたはルートの下のドメイングループでグローバル VSAN を定義できます。グローバル VSAN はファブリック インターコネクต์に固有で、ファブリック A またはファブリック B に作成できます。グローバル VSAN は、共通 VSAN にはできません。

グローバル VSAN の解決は、グローバル サービス プロファイルの展開前に実行されます。グローバル サービス プロファイルがグローバル VSAN を参照し、その VSAN が存在しない場合、リソース不足が原因でそのグローバル サービス プロファイルの展開が失敗します。Cisco UCS Central アカウントで作成されたすべてのグローバル VSAN がそのグローバル サービス プロファイルの展開前に解決されている必要があります。

グローバル VSAN を参照するグローバル サービス プロファイルを削除しても、そのグローバル VSAN は削除されません。Cisco UCS Central アカウントからグローバル VSAN を削除します。

VSAN を参照するグローバル サービス プロファイルを展開する場合にのみ、グローバル VSAN は Cisco UCS Manager アカウントに表示されます。グローバル サービス プロファイルとともに展開される VSAN が Cisco UCS Manager アカウントで利用可能になると、その VSAN をローカルの

サービスプロファイルとポリシーに含めることができます。グローバル VSAN をローカル VSAN に変更することはできません。

グローバル VSAN の作成

次の予約済み範囲の ID を除き、ID が 1 ～ 4093 の範囲のグローバル VSAN を作成できます。

- Cisco UCS ドメインで FC スイッチ モードを使用する予定の場合は、ID が 3040 ～ 4078 の範囲にある VSAN を設定しないでください。
- Cisco UCS ドメインで FC エンドホスト モードを使用する予定の場合は、ID が 3840 ～ 4079 の範囲にある VSAN を設定しないでください。



(注) SAN クラウドの FCoE VLAN と LAN クラウドの VLAN の ID が同じであってはなりません。VSAN 内の FCoE VLAN と VLAN に同じ ID を使用すると、その VLAN を使用しているすべての vNIC とアップリンク ポートで重大な障害が発生し、トラフィックが中断されます。FCoE VLAN ID と重なる ID が設定されたすべての VLAN 上でイーサネット トラフィックがドロップされます。

-
- ステップ 1** メニューバーで [物理 (Physical)] > [コンピューティング (Compute)] の順に選択します。
- ステップ 2** 左側のペインで [マルチ ドメイン マネージャ (Multi-Domain Managers)] を展開します。
- ステップ 3** 左側のペインで [UCS セントラル アカウント (UCS Central Accounts)] を展開し、Cisco UCS Central アカウントをクリックします。
- ステップ 4** 右ペインで、[VSAN] タブをクリックします。
- ステップ 5** [追加 (Add)] をクリックします。
- ステップ 6** [VSAN の追加 (Add VSAN)] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。
- a) [VSAN 名 (VSAN Name)] フィールドに、VSAN の一意の名前を入力します。VSAN 名の大文字と小文字は区別されます。
 - b) [VSAN ID] フィールドに、ネットワークに割り当てられる一意の ID を入力します。
 - c) [ドメイングループ (Domain Group)] フィールドで、グローバル VSAN を作成するドメイングループのチェックボックスをオンにします。
 - d) [ファブリック ID (Fabric ID)] ドロップダウンリストから、グローバル VSAN を作成するファブリック インターコネクトを選択します。
 - e) [FCOE VLAN] フィールドに、VSAN とそのファイバチャネル パケットの転送に使用する VLAN の ID を入力します。
 - f) [送信 (Submit)] をクリックします。
-

WWN プール

WWNN プール

WWNN (ワールドワイドノード名) プールは、WW (ワールドワイド) ノード名だけを含む WWN (ワールドワイド名) プールです。サービスプロファイルに WWNN プールを含める場合、関連付けられたサーバには、そのプールから WWNN が割り当てられます。[WWNN プール (WWNN Pools)] タブでプールをダブルクリックすると、WWNN プール内の WWN ブロックとイニシエータを表示できます。

WWNN プールの作成

- ステップ 1 メニューバーで [物理 (Physical)] > [コンピューティング (Compute)] の順に選択します。
- ステップ 2 左側のペインで [マルチドメインマネージャ (Multi-Domain Managers)] を展開します。
- ステップ 3 左側のペインで [UCS セントラルアカウント (UCS Central Accounts)] を展開し、Cisco UCS Central アカウントをクリックします。
- ステップ 4 右側のペインで [組織 (Organizations)] タブをクリックします。
- ステップ 5 プールを作成する組織をクリックし、[詳細の表示 (View Details)] をクリックします。
- ステップ 6 [WWNN プール (WWNN Pools)] タブをクリックします。
- ステップ 7 [追加 (Add)] をクリックします。
- ステップ 8 [WWNN プールの追加 (Add WWNN Pool)] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[名前 (Name)] フィールド	プールの一意の名前。
[説明 (Description)] フィールド	プールの説明。
[開始 (From)] フィールド	ブロック内の最初の WWNN アドレス。
[サイズ (Size)] フィールド	ブロック内の WWNN アドレスの数。
[ID 範囲資格ポリシー (ID Range Qualification Policy)] ドロップダウンリスト	ID 範囲資格ポリシーを選択します。

- ステップ 9 [送信 (Submit)] をクリックします。

WWXN プール

WWXN プールは、WW ノード名および WW ポート名の両方を含む WWN プールです。

WWXN プールの作成

- ステップ 1** メニューバーで [物理 (Physical)] > [コンピューティング (Compute)] の順に選択します。
- ステップ 2** 左側のペインで [マルチドメインマネージャ (Multi-Domain Managers)] を展開します。
- ステップ 3** 左側のペインで [UCSセントラルアカウント (UCS Central Accounts)] を展開し、Cisco UCS Central アカウントをクリックします。
- ステップ 4** 右側のペインで [組織 (Organizations)] タブをクリックします。
- ステップ 5** プールを作成する組織をクリックし、[詳細の表示 (View Details)] をクリックします。
- ステップ 6** [WWXNプール (WWXN Pools)] タブをクリックします。
- ステップ 7** [追加 (Add)] をクリックします。
- ステップ 8** [WWXNプールの追加 (Add WWXN Pool)] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[名前 (Name)] フィールド	プールの一意の名前。
[説明 (Description)] フィールド	プールの説明。
[開始 (From)] フィールド	ブロック内の最初の WWXN アドレス。
[サイズ (Size)] フィールド	ブロック内の WWXN アドレスの数。
[ID範囲資格ポリシー (ID Range Qualification Policy)] ドロップダウンリスト	ID 範囲資格ポリシーを選択します。

- ステップ 9** [送信 (Submit)] をクリックします。

WWPN プール

WWPN (ワールドワイドポート名) プールは、WW ポート名だけを含む WWN プールです。サービプロファイルに WWPN のプールを含めると、関連付けられたサーバの各 vHBA 上のポートは、そのプールから WWPN を割り当てられます。[WWPN プール (WWPN Pools)] タブでプールをダブルクリックすると、WWPN プール内の WWN ブロックとイニシエータを表示できます。

WWPN プールの作成

- ステップ 1** メニューバーで [物理 (Physical)] > [コンピューティング (Compute)] の順に選択します。
- ステップ 2** 左側のペインで [マルチ ドメイン マネージャ (Multi-Domain Managers)] を展開します。
- ステップ 3** 左側のペインで [UCS セントラル アカウント (UCS Central Accounts)] を展開し、Cisco UCS Central アカウントをクリックします。
- ステップ 4** 右側のペインで [組織 (Organizations)] タブをクリックします。
- ステップ 5** プールを作成する組織をクリックし、[詳細の表示 (View Details)] をクリックします。
- ステップ 6** [WWPNプール (WWPN Pools)] タブをクリックします。
- ステップ 7** [追加 (Add)] をクリックします。
- ステップ 8** [WWPNプールの追加 (Add WWPN Pool)] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[名前 (Name)] フィールド	プールの一意の名前。
[説明 (Description)] フィールド	プールの説明。
[開始 (From)] フィールド	ブロック内の最初の WWPN アドレス。
[サイズ (Size)] フィールド	ブロック内の WWPN アドレスの数。
[ID範囲資格ポリシー (ID Range Qualification Policy)] ドロップダウンリスト	ID 範囲資格ポリシーを選択します。

- ステップ 9** [送信 (Submit)] をクリックします。

WWN ブロックの追加

- ステップ 1** メニューバーで [物理 (Physical)] > [コンピューティング (Compute)] の順に選択します。
- ステップ 2** 左側のペインで [マルチ ドメイン マネージャ (Multi-Domain Managers)] を展開します。
- ステップ 3** 左側のペインで [UCS セントラル アカウント (UCS Central Accounts)] を展開し、Cisco UCS Central アカウントをクリックします。
- ステップ 4** 右側のペインで [組織 (Organizations)] タブをクリックします。
- ステップ 5** プールを変更する組織をクリックし、[詳細の表示 (View Details)] をクリックします。
- ステップ 6** 次のいずれかのタブをクリックします。
- WWNN プール
 - WWPN プール
 - WWXN プール
- ステップ 7** WWN ブロックを追加するプールをクリックします。
- ステップ 8** [WWNブロックの作成 (Create WWN Block)] をクリックします。
- ステップ 9** [WWNブロックの作成 (Create WWN Block)] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[説明 (Description)] フィールド	説明を入力します。
[開始 (From)] フィールド	ブロック内の最初の WWNN、WWPN、または WWXN アドレス。
[サイズ (Size)] フィールド	ブロック内の WWNN、WWPN、または WWXN アドレスの数。
[ID範囲資格ポリシー (ID Range Qualification Policy)] ドロップダウンリスト	ID 範囲資格ポリシーを選択します。

- ステップ 10** [送信 (Submit)] をクリックします。

IQN プール

IQN プールは、iSCSI vNIC が Cisco UCS ドメインでイニシエータ ID として使用する iSCSI 修飾名 (IQN) の集合です。Cisco UCS Central で作成された IQN プールは、Cisco UCS ドメイン間で共有

できます。IQN プールメンバは、プレフィックス:サフィックス:数字の形式になります。ここで、プレフィックス、サフィックス、および数字のブロック（範囲）を指定することができます。IQN プールは複数の IQN ブロックを含むことができます。それらは、数字の範囲とサフィックスは異なりますが、同じプレフィックスを共有します。

IQN プールの作成

- ステップ 1 メニューバーで [物理 (Physical)] > [コンピューティング (Compute)] の順に選択します。
- ステップ 2 左側のペインで [マルチドメインマネージャ (Multi-Domain Managers)] を展開します。
- ステップ 3 左側のペインで [UCS セントラルアカウント (UCS Central Accounts)] を展開し、Cisco UCS Central アカウントをクリックします。
- ステップ 4 右側のペインで [組織 (Organizations)] タブをクリックします。
- ステップ 5 プールを作成する組織をクリックし、[詳細の表示 (View Details)] をクリックします。
- ステップ 6 [IQN プール (IQN Pools)] タブをクリックします。
- ステップ 7 [追加 (Add)] をクリックします。
- ステップ 8 [IQN プール (IQN Pool)] 画面で、IQN プールの名前、説明およびプレフィックスを入力します。
- ステップ 9 [IQN プールブロック (IQN Pool Block)] で、サフィックス、送信元、サイズ、および ID 範囲資格ポリシーの情報を入力します。
- ステップ 10 [送信 (Submit)] をクリックします。

vHBA テンプレート

このテンプレートは、サーバ上の vHBA（仮想ホストバスアダプタ）と SAN の接続方法を定義するポリシーです。これは、vHBA SAN 接続テンプレートとも呼ばれます。

このポリシーを有効にするには、このポリシーをサービスプロファイルに含める必要があります。

vHBA テンプレートの作成

はじめる前に

次のリソースの 1 つ以上がすでに存在していることを前提としています。

- グローバル VSAN
- WWPN プール
- SAN ピン グループ

- 統計情報しきい値ポリシー

- ステップ 1** メニューバーで [物理 (Physical)] > [コンピューティング (Compute)] の順に選択します。
- ステップ 2** 左側のペインで [マルチ ドメイン マネージャ (Multi-Domain Managers)] を展開します。
- ステップ 3** 左側のペインで [UCS セントラル アカウント (UCS Central Accounts)] を展開し、Cisco UCS Central アカウントをクリックします。
- ステップ 4** 右側のペインで [組織 (Organizations)] タブをクリックします。
- ステップ 5** ポリシーを作成する組織をクリックして [詳細の表示 (View Details)] をクリックします。
- ステップ 6** [vHBA テンプレート (vHBA Templates)] タブをクリックします。
- ステップ 7** [追加 (Add)] をクリックします。
- ステップ 8** [vHBA テンプレートの追加 (Add vHBA Template)] ダイアログボックスに、ポリシーの一意の名前および説明を入力します。
- ステップ 9** [ファブリック ID (Fabric ID)] ドロップダウンリストから、このテンプレートから作成した vHBA に関連付けるファブリック インターコネクトを選択します。
- ステップ 10** [VSAN] ドロップダウンリストから、このテンプレートから作成した vHBA に関連付ける VSAN を選択します。
- ステップ 11** [テンプレートタイプ (Template Type)] ドロップダウンリストから、次のいずれかのオプションを選択します。
- [初期テンプレート (Initial Template)] : テンプレートが変更されても、このテンプレートから作成された vHBA はアップデートされません。
 - [テンプレートの更新 (Updating Template)] : テンプレートが変更されると、このテンプレートから作成された vHBA がアップデートされます。
- ステップ 12** [データフィールドの最大サイズ (Max Data Field Size)] フィールドに、vHBA がサポートするファイバチャネル フレームのペイロード バイトの最大サイズを入力します。
256 ~ 2112 の整数を入力します。デフォルトは 2048 です。
- ステップ 13** このテンプレートから作成された vNIC にポリシーを関連付ける場合は、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[データフィールドの最大サイズ (Max Data Field Size)] フィールド	vHBA がサポートするファイバチャネル フレームのペイロード バイトの最大サイズ。 256 ~ 2112 の整数を入力します。デフォルトは 2048 です。
[WWPN プール (WWPN Pool)] ドロップダウン リスト	このテンプレートから作成された vHBA が、その WWPN アドレスを導出するために使用する WWPN プールを選択します。

名前	説明
[QoSポリシー (QoS Policy)] ドロップダウン リスト	このテンプレートから作成された vHBA に関連付けられる Quality of Service (QoS) ポリシーを選択します。
[ピングループ (Pin Group)] ドロップダウン リスト	このテンプレートから作成された vHBA に関連付けられる SAN ピン グループを選択します。
[統計しきい値ポリシー (Stats Threshold Policy)] ドロップダウン リスト	このテンプレートから作成された vHBA に関連付けられる統計情報しきい値ポリシーを選択します。

ステップ 14 [送信 (Submit)] をクリックします。

次の作業

vHBA テンプレートを vHBA ポリシーに含めます。

vHBA ポリシーの作成

はじめる前に

次のうち少なくとも 1 つが、このポリシーを適用する Cisco UCS Central アカウントと組織に存在することを確認します。

- vHBA テンプレート
- ファイバチャネルアダプタ ポリシー

- ステップ 1 メニューバーで、[ポリシー (Policies)] > [物理インフラストラクチャポリシー (Physical Infrastructure Policies)] > [UCS セントラル (UCS Central)] の順に選択します。
- ステップ 2 [vHBA ポリシー (vHBA Policy)] タブをクリックします。
- ステップ 3 [追加 (Add)] をクリックします。
- ステップ 4 [UCS セントラル vHBA ポリシーの作成 (Create UCS Central vHBA Policy)] ダイアログボックスで、次を実行します。
- [vHBA 名 (vHBA Name)] フィールドに、ポリシーの一意の名前を入力します。
 - [アカウント名 (Account Name)] ドロップダウンリストから、このポリシーを適用する Cisco UCS Central アカウントを選択します。
 - [組織 (Organization)] ドロップダウンリストから、このポリシーを適用する組織を選択します。

- d) [vHBAテンプレート (vHBA Template)] ドロップダウンリストから、vHBA テンプレートを選択します。
- e) [アダプタポリシー (Adapter Policy)] ドロップダウンリストから、アダプタ ポリシーを選択します。
- f) [送信 (Submit)] をクリックします。

次の作業

vHBA ポリシーをストレージ ポリシーに含めます。

SAN 接続ポリシー

SAN接続ポリシーは、ネットワーク上のサーバとLANの間の接続およびネットワーク通信リソースを決定します。これらのポリシーは、プールを使用して WWN および WWPN をサーバに割り当て、サーバがネットワークと通信するために使用する vHBA を識別します。



- (注) これらの接続ポリシーは、サービス プロファイルおよびサービス プロファイル テンプレートに含まれ、複数のサーバを設定するために使用できるので、静的 ID を接続ポリシーで使用することはお勧めしません。

SAN 接続ポリシーの作成

- ステップ 1 メニューバーで [物理 (Physical)] > [コンピューティング (Compute)] の順に選択します。
- ステップ 2 左側のペインで [マルチ ドメイン マネージャ (Multi-Domain Managers)] を展開します。
- ステップ 3 左側のペインで [UCS セントラル アカウント (UCS Central Accounts)] を展開し、Cisco UCS Central アカウントをクリックします。
- ステップ 4 右側のペインで [組織 (Organizations)] タブをクリックします。
- ステップ 5 ポリシーを作成する組織をクリックして [詳細の表示 (View Details)] をクリックします。
- ステップ 6 [SAN接続ポリシー (SAN Connectivity Policies)] タブをクリックします。
- ステップ 7 [追加 (Add)] をクリックします。
- ステップ 8 [SAN接続ポリシー (SAN Connectivity Policy)] ダイアログボックスに、ポリシーの名前と説明を入力します。
- ステップ 9 [WWNNプール (WWNN Pool)] ドロップダウン リストから、このポリシーと関連付ける WWNN プールを選択します。
- ステップ 10 [vHBA] 表で、[追加 (Add)] をクリックし、次の手順を実行します。
 - a) vHBA の名前を入力します。

- b) vHBA テンプレートを使用して vHBA を作成し、[vHBAテンプレートの使用 (Use vHBA Template)] チェックボックスをオンにして、表示されるドロップダウンリストから適切なテンプレートを選択します。
- c) テンプレートなしで新しい vHBA を作成する場合は、[vHBAテンプレートの使用 (Use vHBA Template)] チェックボックスをオフにして、表示されるフィールドに値を入力します。
これらのフィールドの詳細については、[vHBA テンプレートの作成 \(7 ページ\)](#) を参照してください。
- d) [送信 (Submit)] をクリックします。
ポリシーにさらに vHBA を追加する場合は、この手順を繰り返します。

ステップ 11 ポリシーに必要な vHBA をすべて作成したら、[送信 (Submit)] をクリックします。

ストレージポリシー

ストレージポリシーは Cisco UCS Director ポリシーであり、サーバに割り当てられたワールドワイド ノード名 (WWNN) やサーバで使用する仮想ホスト バス アダプタ (vHBA) などの SAN ストレージとサーバの間の接続を設定します。選択した設定に応じて、このポリシーを使用して 2 つ以上のサーバ用 vHBA を設定できます。このポリシーで vHBA の作成を選択するか、SAN 接続ポリシーを使用して vHBA の設定を決定することができます。

このポリシーはサービスプロファイルに組み込む必要があります。また、このサービスプロファイルを有効にするには、サーバに関連付ける必要があります。

ストレージポリシーの作成

- ステップ 1** メニューバーで、[ポリシー (Policies)] > [物理インフラストラクチャポリシー (Physical Infrastructure Policies)] > [UCS セントラル (UCS Central)] の順に選択します。
- ステップ 2** [ストレージポリシー (Storage Policy)] タブをクリックします。
- ステップ 3** [追加 (Add)] をクリックします。
- ステップ 4** [UCS セントラルストレージポリシーの作成 (Create UCS Central Storage Policy)] ダイアログボックスに、ポリシーの名前および説明を入力します。
- ステップ 5** 次のフィールドに値を入力して、ポリシーの Cisco UCS Central 接続を指定します。
 - [アカウント名 (Account Name)] ドロップダウンリスト: このポリシーを追加する Cisco UCS Central アカウントを選択します。
 - [組織 (Organization)] ドロップダウンリスト: このポリシーを追加する Cisco UCS Central 組織を選択します。

ステップ 6 [ローカルディスクの設定ポリシー (Local Disk Configuration Policy)] ドロップダウンリストから、このストレージポリシーに含めるローカルディスクの設定ポリシーを選択します。

ステップ 7 [SAN接続タイプ (SAN Connectivity Type)] ドロップダウンリストから、次のいずれかの接続タイプを選択します。

オプション	説明
[エキスパート (Expert)]	SAN ストレージへのアクセス用にサーバで使用できる vHBA を最大 10 まで作成できます。 ステップ 8 に進みます。
[シンプル (Simple)]	SAN ストレージへのアクセス用にサーバで使用できる vHBA を最大 2 つ作成できます。 ステップ 9 に進みます。
[vHBAなし (No vHBAs)]	vHBA は作成できません。このオプションを選択した場合、このポリシーを含むサービスプロファイルに関連付けられたサーバは SAN に接続されません。 ステップ 11 に進みます。
[継承したハードウェア (Hardware Inherited)]	サーバに関連付けられたファイバチャネルアダプタプロファイルに割り当てられた vHBA を使用します。 ステップ 11 に進みます。
[SAN接続ポリシーの使用 (Use SAN Connectivity Policy)]	SAN 接続ポリシーを使用して、サーバの SAN 接続を決定します。 ステップ 10 に進みます。

ステップ 8 [エキスパートSANストレージ (expert SAN storage)] オプションを選択した場合は、次の手順を実行します。

- a) [WWNNプール (WWNN Pool)] ドロップダウンリストから、このポリシーに割り当てる WWNN プールを選択します。
このストレージポリシーを使用するサービスプロファイルに関連付けられた各サーバに WWNN を割り当てるために、WWNN プールに十分な数の WWNN があることが必要です。
- b) [vHBAの追加 (Add vHBA)] ドロップダウンで、ストレージポリシーに追加する vHBAs の数 (最大 10) を選択します。
- c) [vHBA1.....vHBA10 テンプレート (Template For vHBA1.....vHBA10)] リストから、各 vHBA のテンプレートをを選択します。
- d) ステップ 11 に進みます。

ステップ 9 [シンプルSANストレージ (simple SAN storage)] オプションを選択した場合は、次の手順を実行します。

- a) [WWNNプール (WWNN Pool)] ドロップダウンリストから、このポリシーに割り当てる WWNN プールを選択します。

このストレージポリシーを使用するサービス プロファイルに関連付けられた各サーバに WWNN を割り当てるために、WWNN プールに十分な数の WWNN があることが必要です。

- b) [vHBA0 (ファブリックA) (vHBA0 (Fabric A))] 領域で、次のフィールドに値を入力します。
- [vHBA0の名前 (vHBA0 Name)] 領域で、vHBA の一意の名前を入力します。
 - [VSANの選択 (Select VSAN)] ドロップダウンリストで、この vHBA を関連付ける VSAN の名前を選択します。
- c) [vHBA1 0 (ファブリックB) (vHBA1 (Fabric B))] 領域で、次のフィールドに値を入力します。
- [vHBA1の名前 (vHBA1 Name)] フィールドに、vHBA の一意の名前を入力します。
 - [VSANの選択 (Select VSAN)] ドロップダウンリストで、この vHBA を関連付ける VSAN の名前を選択します。
- d) ステップ 11 に進みます。

ステップ 10 [SAN接続ポリシー (SAN connectivity policy)] オプションを選択した場合は、[SAN接続ポリシー (SAN Connectivity Policy)] ドロップダウンリストからサーバに関連付けるポリシーを選択します。

ステップ 11 [送信 (Submit)] をクリックします。

次の作業

ストレージポリシーをサービス プロファイルに含めます。

ID 範囲資格ポリシー

ID 範囲資格ポリシーにより、ポリシーを作成し、認定されたドメイングループとドメイン IP アドレスに割り当てることができます。ID 範囲資格ポリシーは、これらのドメイングループとドメイン IP アドレスに対して表示されます。また、ID 範囲資格ポリシーを作成し、認定されたドメイングループまたは IP アドレスを割り当てないでおくこともできます。条件を設定しない場合、ポリシーはすべてのドメイングループに対して使用可能になります。ID 解決は、他のグローバルポリシーと同様に組織構造内で階層的に行われます。

ID 範囲資格ポリシーは以下に関連づけることができます。

- MAC プール
- WWNN プール
- WWPN プール
- WWXN プール
- IP プール
- IQN プール

ID 範囲資格ポリシーを作成したら、新しいプールまたは既存のプール内のブロックにそのポリシーを適用できます。

ID 範囲資格ポリシーの作成

-
- ステップ1 メニューバーで [物理 (Physical)] > [コンピューティング (Compute)] の順に選択します。
 - ステップ2 左側のペインで [マルチドメインマネージャ (Multi-Domain Managers)] を展開します。
 - ステップ3 左側のペインで [UCSセントラルアカウント (UCS Central Accounts)] を展開し、UCS Central アカウントをクリックします。
 - ステップ4 右側のペインで、[ID範囲資格ポリシー (ID Range Qualification Policies)] タブをクリックします。
 - ステップ5 [追加 (Add)] をクリックします。
 - ステップ6 [ID範囲認定仕様の作成 (Create ID Range Qualification Specification)] に、ポリシーの名前および説明を入力します。
 - ステップ7 [ドメイングループ (Domain Group)] テーブルで、適切なドメイングループまたはグループのチェックボックスをオンにします。
 - ステップ8 [送信 (Submit)] をクリックします。
-